

“ちょっと長め”の自己紹介

講師：三溪園副園長 村田和義様

三溪園から村田副園長にお越しいただき、昨今の三溪園の事情や、三溪園とみなとみらい 21 との関わりについてお話いただきました。

三溪園の入園者数は、過去5年間順調に伸びたあと平成30年度は桜のピークのズレなどにより落ち込みましたが、外国人入園者数は順調に伸びています。重要文化財の保存修理事業として、今年度は臨春閣の屋根の葺き替えが行われています。

みなとみらい 21 地区は、関内地区と横浜駅周辺とに二分している横浜の中心を結び付け、市民の雇用の場を作ることを目的に整備されました。そもそも中心が二分されている背景には幕末に横浜を開港したことがあり、横浜中心部の地図を示しながら、横浜駅が現桜木町、高島町付近を経て北西方向へ移動したこと、逆の南東方向に三溪園があることを明快に解説くださいました。

質疑応答では、建造物修繕のための寄附金の集め方のアイデアや、外国人に向けたPRについて会員から発言がありました。



地図を示しながら講演する村田副園長

4月の岡谷・下諏訪研修ツアーの報告



4月13日、諏訪湖サービスエリアにて

報告者：久保

スライドショーでツアーを振り返りました。岡谷は明治初期から生糸の一大生産地であり、片倉組（後の片倉工業株式会社）の発祥の地です。岡谷蚕糸博物館は養蚕から製糸業まで、製糸業を総合的に扱っています。下諏訪の三井家は明治初年に製糸業に進出して同業者と白鶴社を組織し、その高品質な生糸は原商店（後の原合名会社）を通じて輸出されました。原富太郎との取引を示す文書が三井家に残っています。

8月の展示会について

7月開幕の「原三溪の美術」展で原三溪市民研究会が連携して実施する展示「もっと知ろう！原三溪—原三溪市民研究会 10年の足跡—」の準備を行いました。運営委員会では横浜美術館の学芸員とパネル枚数等を打合せました。例会では、会員全体で展示の構成や展示室の運営などについて確認を進めました。

